

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	京都工芸繊維大学
整理番号	B07
構 想 名	OPEN-TECH INNOVATION ～世界に、社会に、地域に開かれた工科大学構想～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) 本構想は、京都工芸繊維大学の得意分野における研究成果と築き上げたネットワークを軸に、海外の第一線級の研究者ユニットを誘致し交流することにより、「工織コンピテンシー」（卒業生として有すべき専門性、リーダーシップ、外国語運用能力及び文化的アイデンティティ）を備えた理工科系高度専門技術者(TECH LEADER)を養成することを目的とし、その要件としての「TECH LEADER 指標」をきめ細かく定め整備している。 学生交流の取組において、外国人留学生の受入れ実績（通年）、日本人学生の留学経験者数の目標に対して順調に目標を達成し、体制ガバナンス面においては、教育に関する戦略強化のための組織改革、人事給与システムの改革を行い、年俸制適用教員の拡大と優秀な若手教員・外国人教員の採用を行っている。学生・教職員のグローバル化の推進については、集中的な英語プログラムの実施、TECH LEADER 養成プログラムの実施、3×3の構造改革（学部—修士課程の弾力化）、クォーター制の導入を実施し、外国語による授業科目数も目標を達成している。また、海外一線級の研究者との交流も順調に計画・実施され、研究推進のためのグローバル拠点形成と国内外での通用性の高い賞の受賞や、THE 世界ランキングの獲得に繋がっている点も評価できる。 一方で、外国語による授業科目数・割合および外国語のみで卒業できるコース設置数では目標を達成しているものの、コース（大学院）の在籍者は極めて少数である。また、外国語力基準を満たす学生数は学部・大学院ともに目標に達していないことから、最終目標の達成にむけた早急な対策を講じる必要がある。3×3構造への改革は優れた取組であり、他大学のモデルとなるが、その内容は大学院に偏っているので、学士課程を含め一貫した効果的なシステムとするよう一層の工夫が望まれる。 なお、事業によって得られた成果について、本事業に採択されていない大学を含めた国内大学に展開する機会を設けることを期待する。 また、財政支援期間終了後を見据えた自走化を見据えた資金への取組が遅れており不安が残る。本構想における取組事業・内容はそれぞれ競争力があると思われるが、事業後を見据えた寄附金・外部資金獲得についての具体的な構想と計画策定が必要である。	